

岡山市介護ロボット普及推進事業 結果概要

令和4年3月

目次

令和3年度の結果概要	3
事業概要	4
対象の介護ロボット・貸し出し実績【機器貸し出し・調査】	5
事業所としての機器導入効果【機器貸し出し・調査】	6
要介護者に対する機器導入効果【機器貸し出し・調査】	7
機器ごとの事業効果【機器貸し出し・調査】	9
3年間の振り返りと今後に向けて	11
事業効果の年次推移	12
職員の属性別にみた事業効果	14
今後に向けて～市独自の取り組みをより効果的に実施するために～	16

令和3年度の結果概要

事業概要

■ 機器貸し出し・調査

目的	<ul style="list-style-type: none">■ 介護ロボットのうち、介護事業所の職員の負担軽減及び要介護者等に対する見守り、日常動作補助、精神的ケア等に資する6機種を市が選定（☞詳細は次ページ参照）■ 市が委託した介護ロボット製造事業者等から介護事業所に3か月間無償で貸し出し■ 介護ロボットの利用を促進＋利用効果等を調査
実施期間	<ul style="list-style-type: none">■ 前期：令和3年7月～9月／後期：令和3年11月～令和4年1月の2回設定■ 事前：機器導入前1週間／事後：機器導入後3か月の最終週1週間の2フェーズに分けて調査を実施
対象事業所	<ul style="list-style-type: none">■ 介護保険法に規定する全ての介護サービスを提供する事業所【令和2年度から施設にも対象拡大】■ 合計49事業所を採択（☞詳細は次ページ参照）
事業の流れ	<ul style="list-style-type: none">■ 事業の準備：事業所における事業責任者の選定→事業に関わる職員に対する説明、機器導入・定着にかかる講習会等の実施→対象機器を導入し効果を検証する要介護者の選定→要介護者への説明・依頼・同意書の取得→機器の導入■ 事業の実施：機器の利用→調査票の記入■ 調査票の提出

■ 介護ロボット研修会

目的	■ 介護保険サービス施設・事業所職員を対象とした介護ロボットに関する情報提供、導入促進	
方法	■ オンライン（Zoomミーティングのライブ配信）	
日時	■ 令和3年9月1日（水）19:00～21:00	■ 令和4年1月27日（木）18:00～19:30
プログラム	<ul style="list-style-type: none">■ 講演「今なぜ介護ロボットなのか？ ～介護の未来は介護が創る、介護ロボットの活用に向けて～」 （一社）富山県介護福祉士会会長、黒部市介護老人保健施設カリエール介護係長 舟田 伸司 氏	<ul style="list-style-type: none">■ 講演「介護施設・事業所におけるロボット・ICT導入の必要性について～DX化で変化する介護現場の生産性～」 （社福）東京聖新会 特別養護老人ホームフローラ田無施設長 尾林 和子 氏
参加者数	■ 66人	■ 61人

対象の介護ロボット・貸し出し実績

【機器貸し出し・調査】

図 貸し出し対象の介護ロボット

- ロボット技術(情報を感知し、判断し、動作する、という3つの要素技術を有する、知能化した機械システム)を適用して、従来の機器ではできなかった優位性を発揮する機器
- 技術革新やメーカー等の製品開発努力等により、新たに開発されるもので、従来の機器では実現できなかった機能を有する機器



表 介護ロボット貸し出し実績

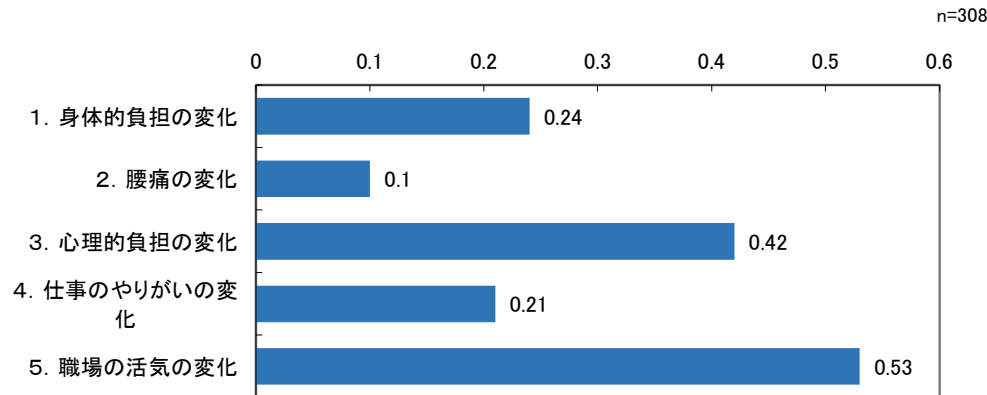
サービス種別	事業所数	機器別の台数内訳(台)						
		アイエイド	見守りライフ	PALRO	パロ	HAL	パワーアシストグローブEX	
在宅系	デイ	16	0	0	6	11	2	4
	認知症デイ	1	0	0	0	1	0	0
	通りハ	6	15	9	5	3	3	3
	小多機	3	0	0	0	5	0	0
	定巡訪看	1	2	0	0	0	0	0
施設系	特養	9	6	39	1	10	2	0
	老健	3	0	16	0	0	0	0
	医療院	1	0	0	0	0	1	0
	有料	1	0	0	0	2	0	0
	GH	8	2	1	0	9	0	0
貸出合計	49	25	65	12	41	8	7	
募集台数	—	58	80	12	50	8	20	

出所)岡山市「介護ロボット普及推進事業」のご案内チラシ

事業所としての機器導入効果【機器貸し出し・調査】

職員の業務負担・やりがいの変化

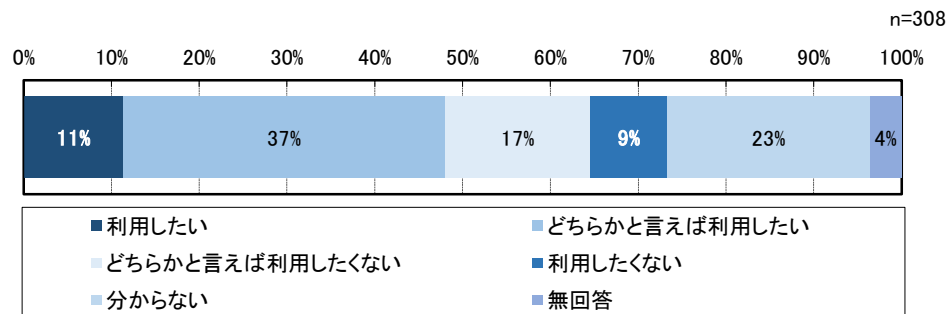
- 導入前に比べると**全般にプラスの変化**あり
- 特に、**心理的負担の軽減、職場の活気に効果大**



※各項目±3点の範囲で選択し、点数が高くなるほどプラスの変化あり。

職員の介護ロボット全般の今後の利用意向

- 事業終了時(事後):「利用したい」「どちらかと言えば利用したい」を合わせ、**利用に前向きな割合が半数(48%)**



事業所としてのプラスの感想(自由記述)

- **利用者の笑顔**が増え雰囲気が穏やかになった
- 利用者が精神的に安定し**不穏が軽減**した
- 利用者の**リハビリ等への取り組み意欲**が向上した
- **利用者**と**職員**の**コミュニケーション**が増えた
- 職員の**業務負担が軽減**し**他業務に時間**がさけるようになった
- 機器導入・定着について**話し合うこと**で**職場が活性化**した

事業所としてのマイナスの感想(自由記述)

- 機器の操作や管理・準備・後片付け、利用者の見守りでかえって**業務が増えた**
- **破損リスク**や**安全面、衛生面の心配**があった
- **利用者が飽きて**しまい**継続利用**ができなかった
- 事業終了後も**利用するには費用負担**が大きい

今後に向けた示唆

■ 事業所に求められること

- ✓ 機器導入目的の明確化
- ✓ 目的に合致した要介護者の選定
- ✓ 管理職から現場職員までが意識を統一、組織的に継続的な取り組み
- ✓ 導入後により効果的・効率的な活用方法を知るためのフォロー
- ✓ 実際に機器を利用した職員同士での情報共有

■ 行政に求められること

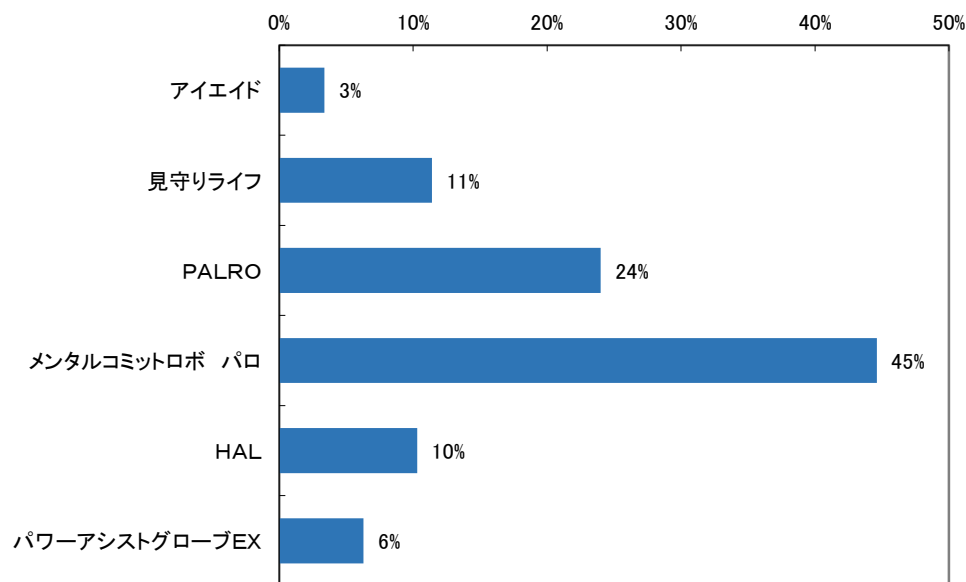
- ✓ 機器導入の費用助成やリース・レンタル制度の構築を主導
- ✓ 本事業における貸し出し対象や台数、期間の見直し
- ✓ 事業所間での機器導入に関する工夫を共有する場の設定

要介護者に対する機器導入効果【機器貸し出し・調査】

導入した機器

- 本事業で機器導入した要介護者175人のうち、パロを利用が45%、PALRO利用が24%、見守りライフ利用が11%

n=175

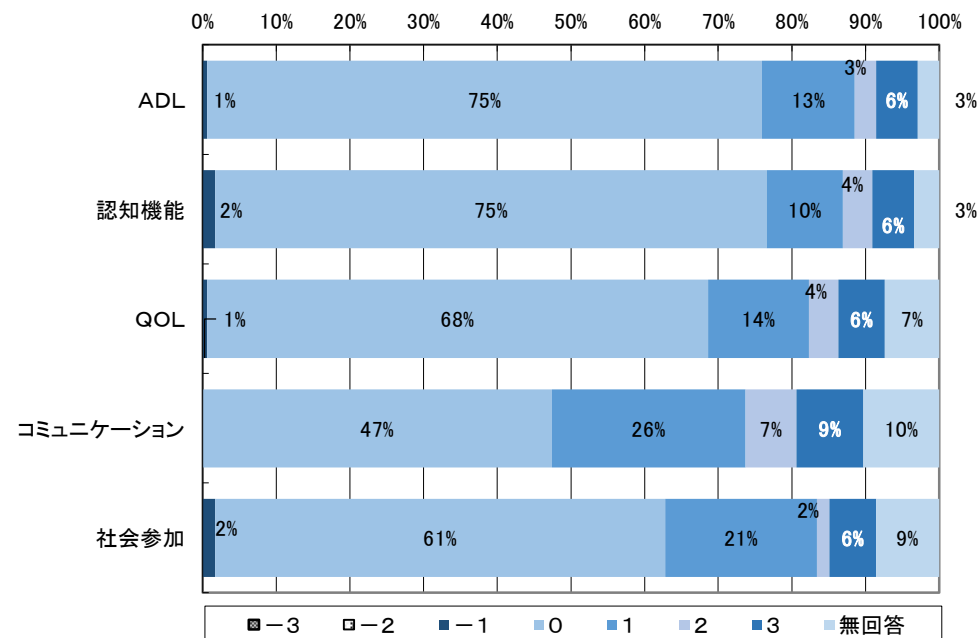


機器導入による要介護者の変化

- 要介護者の8割が80歳以上で、事業期間の3か月間、心身状況維持できたことは一定の成果
- コミュニケーション42%、社会参加29%、QOL24%、ADL21%、認知機能20%でプラスの変化

→時間をかけたアセスメント、効果的な利用のための声かけにより、利用者のQOLや社会参加にもプラスの波及効果

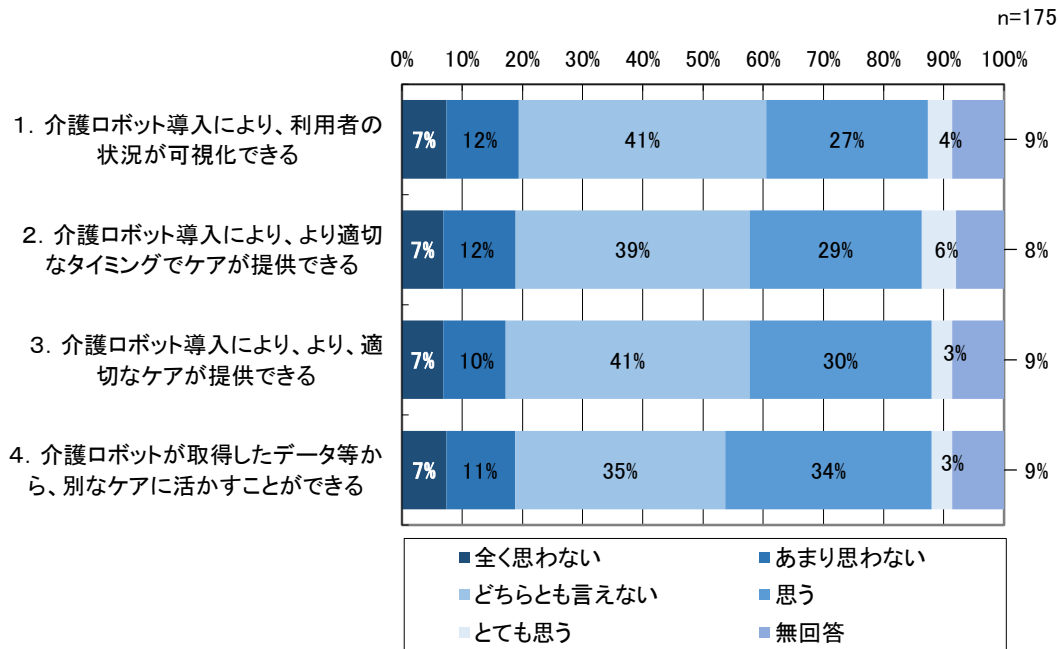
n=175



要介護者に対する機器導入効果【機器貸し出し・調査】

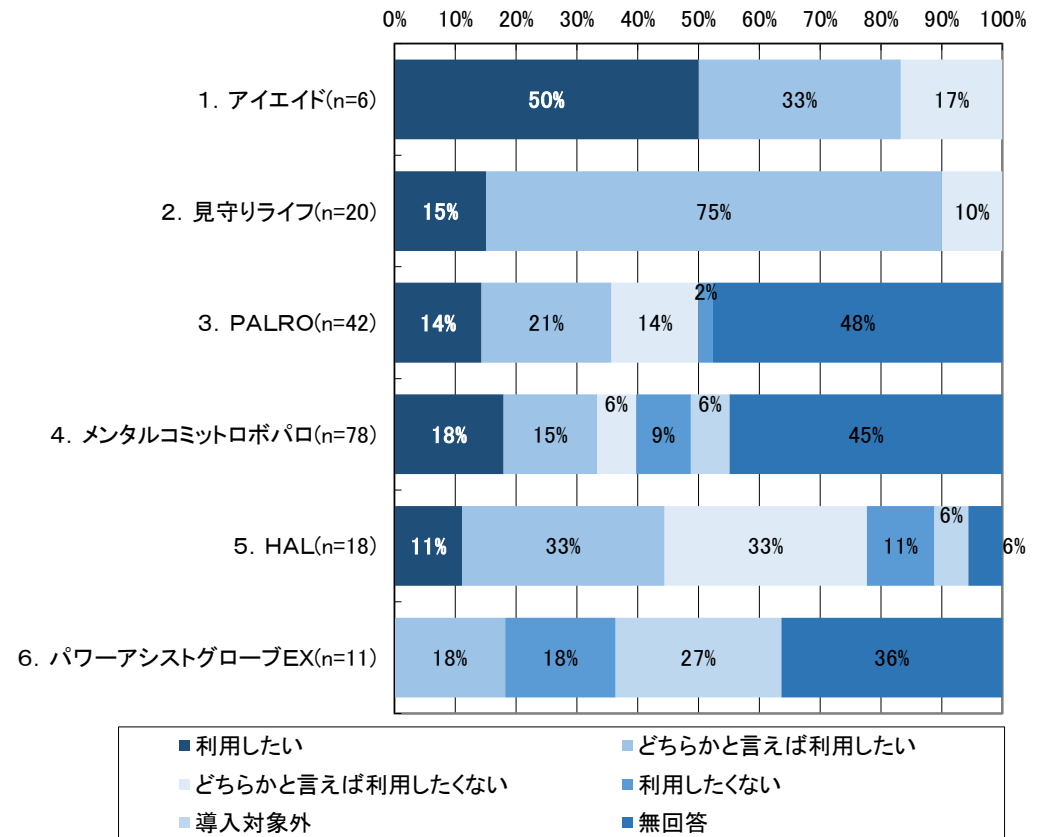
機器導入によるケア内容の変化

- 機器導入により利用者の状況を可視化し、適切なタイミングでケア提供できる【科学的介護を実現】



対象要介護者への今後の介護ロボットの利用意向

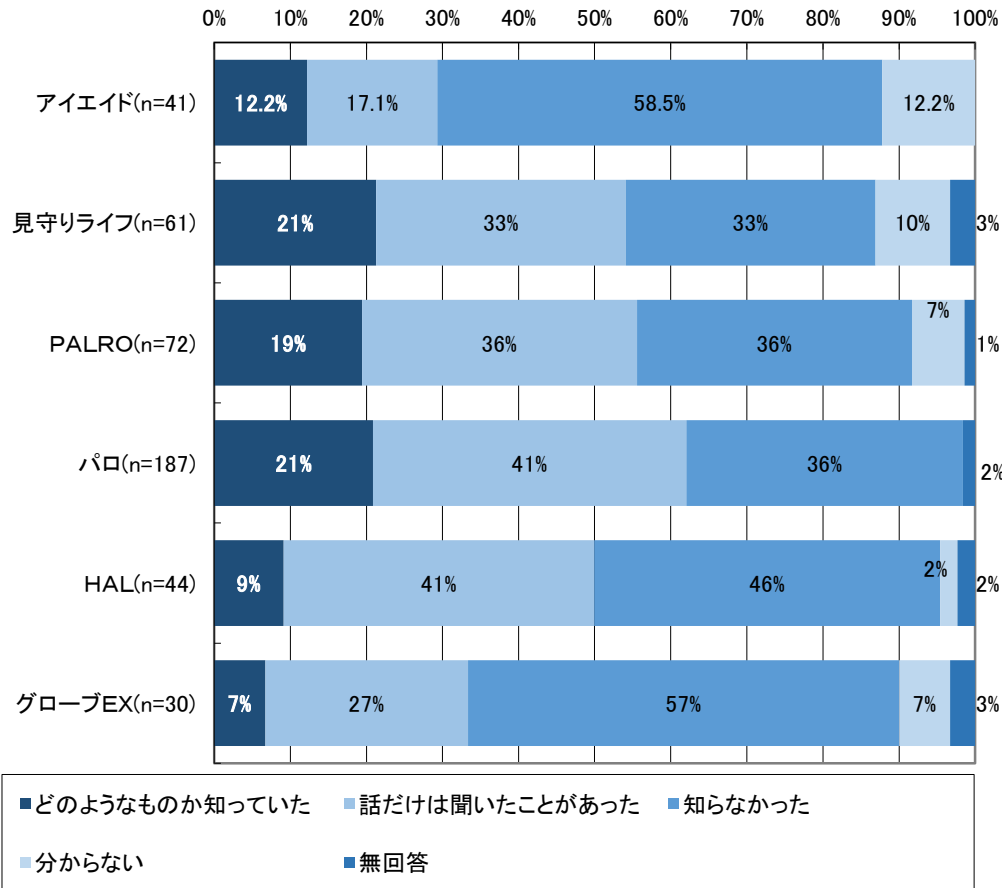
- 本事業で機器導入した要介護者に対して、今後も機器を利用することについて、見守りライフ、アイエイドで8割が前向き



機器ごとの事業効果【機器貸し出し・調査】

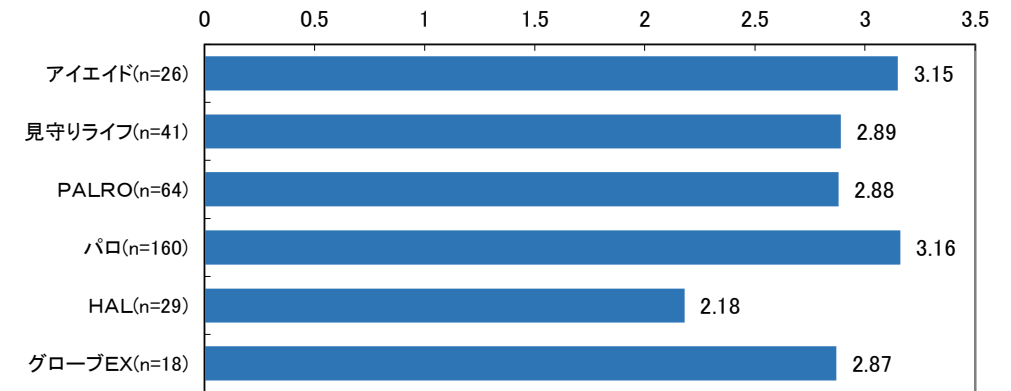
機器の認知度向上

- 「どのようなものか知っていた」割合は多くても2割前後
→機器の概要、特長を実際に使用して知ることができた意義は大きい



機器の満足度

- パロ、アイエイド、見守りライフ、PALRO、アイエイド、HALの順に満足度が高い

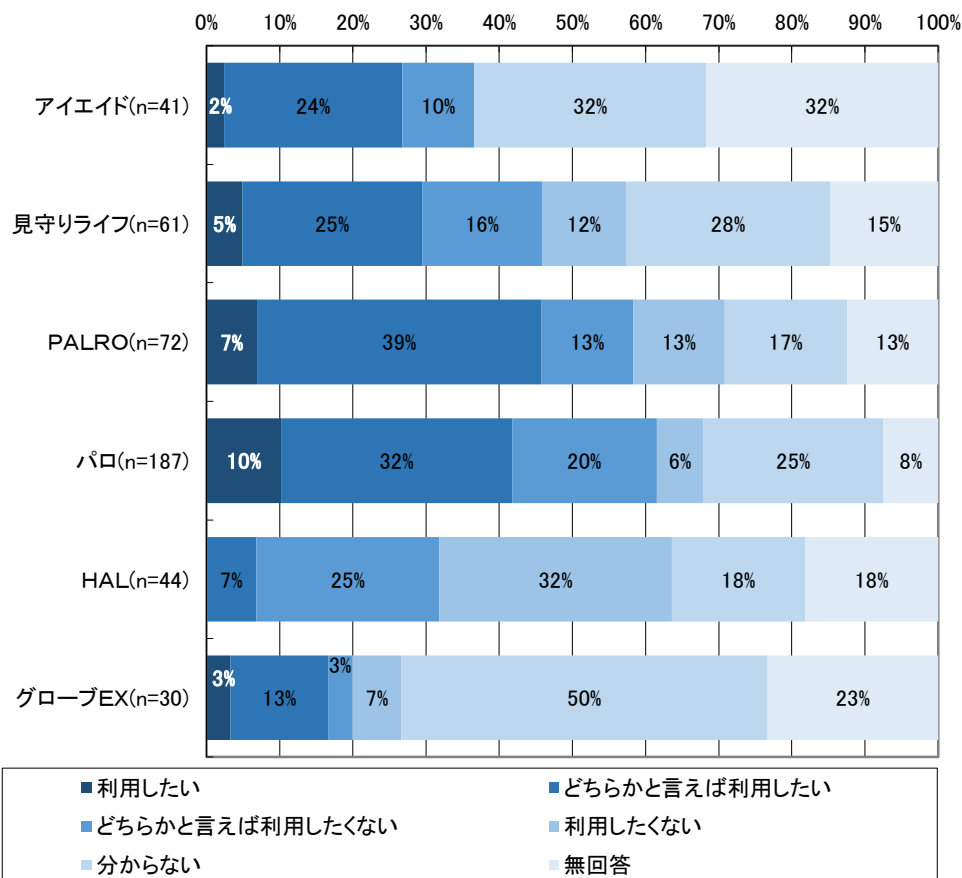


※QUEST福祉用具満足度評価の得点(5点満点)
1~5点で評価し、点数が高いほど、満足度が高い。

機器ごとの事業効果【機器貸し出し・調査】

機器の今後の利用意向

- 職員の今後の利用意向が高い機器は、PALRO、パロ、見守りライフ、アイエイド、HAL、グローブEXの順である
- 本事業における適用に合った要介護者への利用は前向きでも、利用者全体、事業所全体に導入するには更なる工夫が必要



■ データを見る際の留意点

- ✓ 導入までの準備期間が短期であり、3か月の限定的な貸し出しで、事業所が機器の効果を実感するに至らなかった可能性あり
- ✓ この満足度や利用意向がそのまま機器の効果に直結するものではないことに留意
- ✓ 貸し出し台数が少ない機器は回答数が少ないため、機器間比較の際に留意が必要

■ 次年度以降の事業成果を高めるために精査すべき点

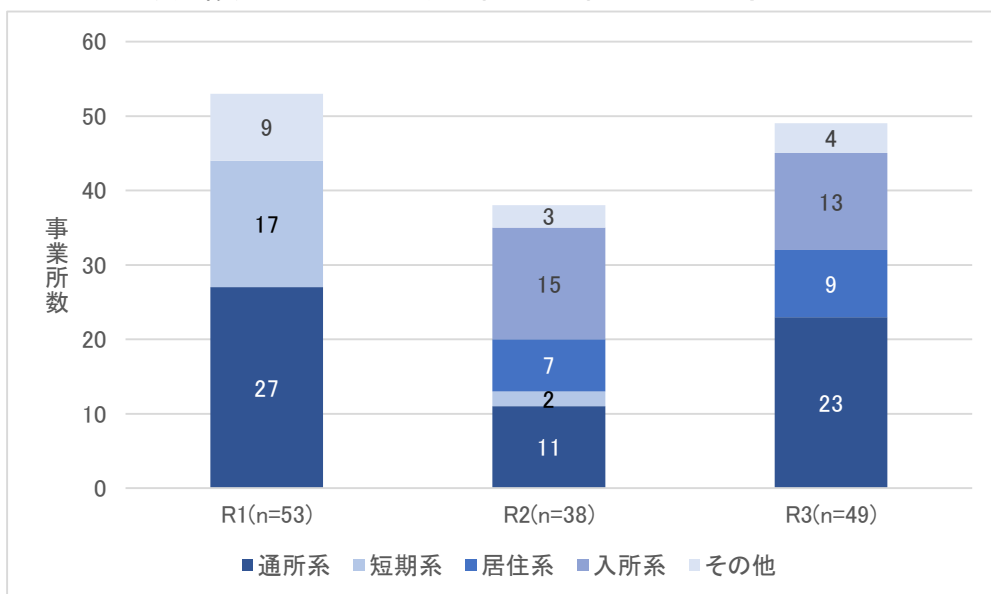
- ✓ 対象機器の選定
- ✓ 貸し出し台数や事業期間の設定
- ✓ 導入・定着に当たっての事業所の体制整備

3年間の振り返りと今後に向けて

事業効果の年次推移

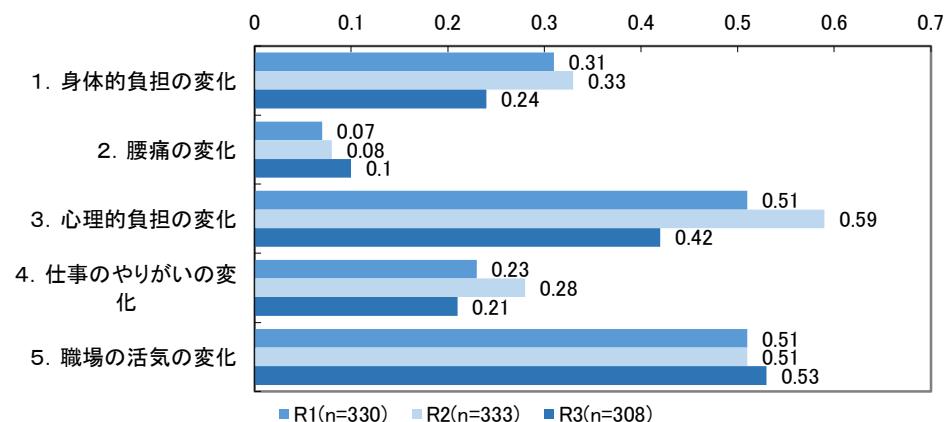
参加事業所数

- 3年間で延べ140事業所が参加(通所系61、入所系28、短期系19、居住系16、その他16)
- 市内の多くの事業所に介護ロボットに関する情報、試用機会を提供した意義あり
- ただし、介護ロボットに対する関心が高い法人・事業所に止まる



職員の業務負担・やりがいの変化

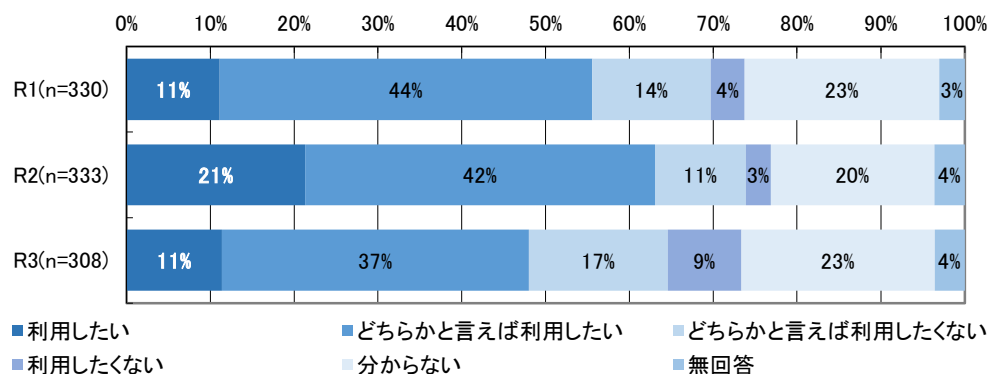
- 導入前に比べると全般にプラスの変化あり
- 特に、心理的負担の軽減、職場の活気に効果大



※各項目±3点の範囲で選択し、点数が高くなるほどプラスの変化あり。

職員の介護ロボット全般の今後の利用意向

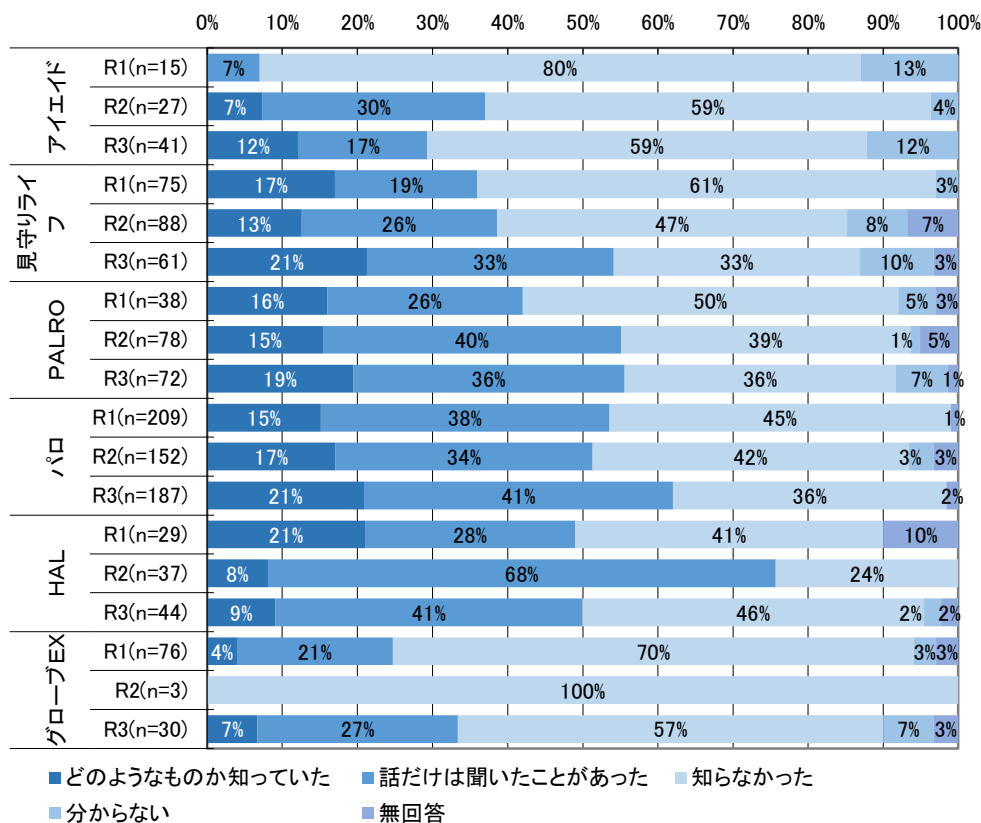
- 事業終了時(事後):「利用したい」「どちらかと言えば利用したい」を合わせ、利用に前向きな割合が5~6割
- 介護ロボット導入・定着を推進する人材確保に一定の効果あり



事業効果の年次推移

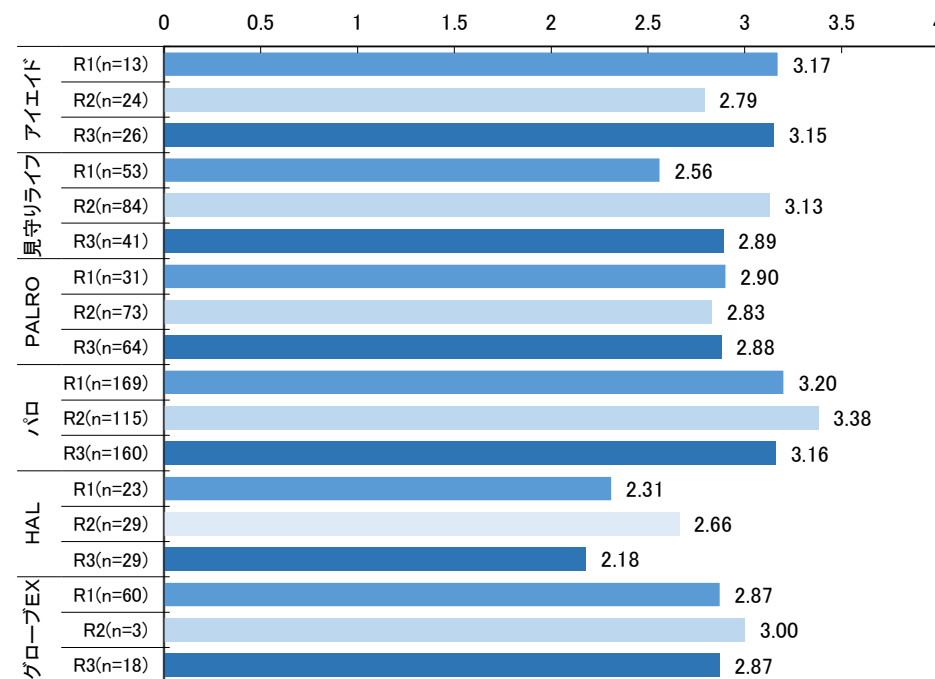
機器の認知度向上

- 「どのようなものか知っていた」割合は多くても2割前後
→ 機器の概要、特長を実際に使用して知ることができた意義は大きい



機器の満足度

- 機器の満足度は年度によりばらつき(年度ごとに参加事業所、試用した要介護者が異なるため、満足度の経年変化の検証は困難)



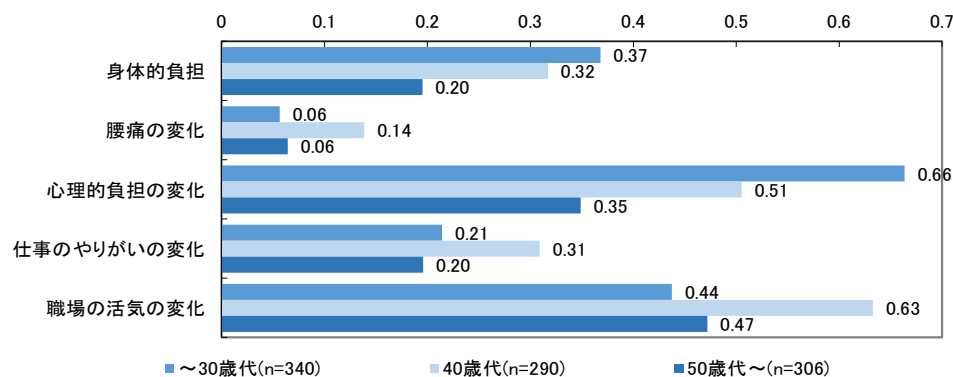
※QUEST福祉用具満足度評価の得点(5点満点)
1~5点で評価し、点数が高いほど、満足度が高い。

職員の属性別にみた事業効果

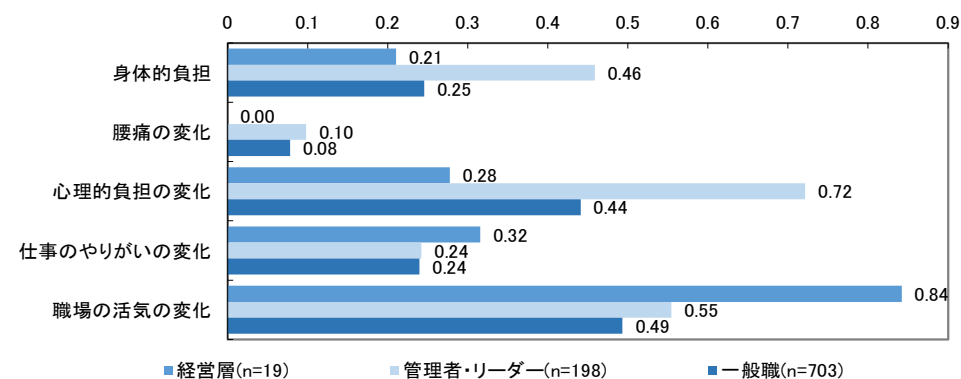
職員の業務負担・やりがいの変化

- 30歳代までは、心理的・身体的負担の軽減、40歳代は仕事のやりがい、職場の活気に手応え
- 機能訓練指導員、介護職員の順にプラスの変化
- 管理者・リーダー層は一般職に比べて手応え

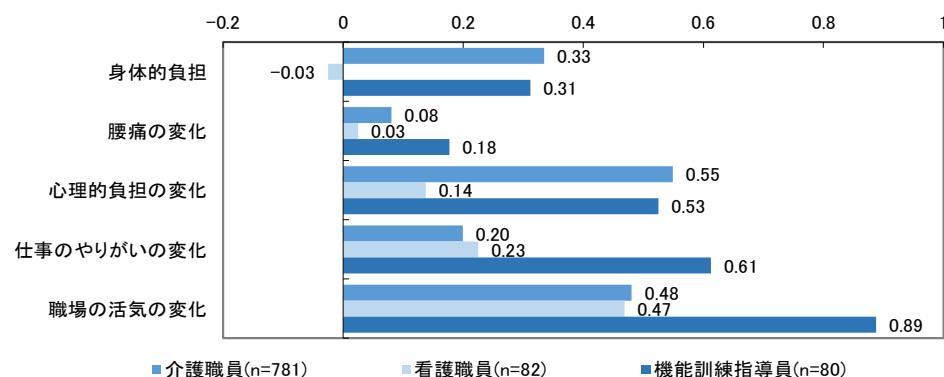
＜導入に伴う業務負担ややりがいの変化；職員の年齢別＞



＜導入に伴う業務負担ややりがいの変化；職員の役職別＞



＜導入に伴う業務負担ややりがいの変化；職員の職種別＞

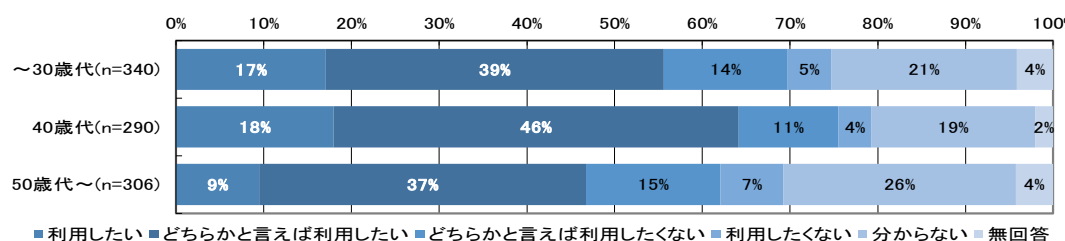


職員の属性別にみた事業効果

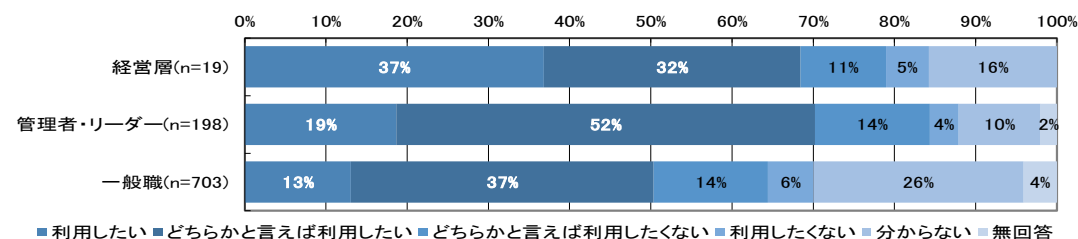
職員の介護ロボット全般の今後の利用意向

- 40歳代、30歳代までの順に利用意向が高く、半数超
- 機能訓練指導員の利用意向が高く、75%超
- 管理者・リーダーの利用意向が高く、7割

＜介護ロボット全般の今後の利用意向；職員の年齢別＞



＜介護ロボット全般の今後の利用意向；職員の役職別＞



＜介護ロボット全般の今後の利用意向；職員の職種別＞

